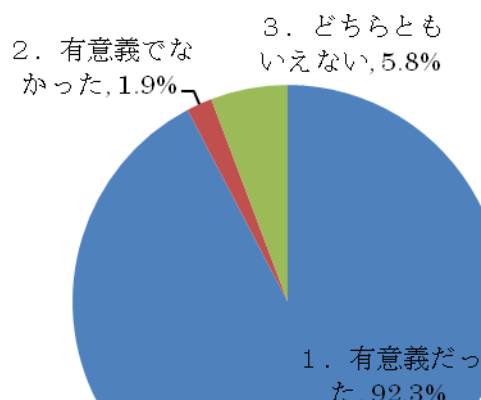


平成20年度 第3回全学FD アンケート結果について

実施日	: 平成21年1月20日(火)
参加者数	: 82人
回収枚数	: 52枚
回収率	: 63.4%

質問1 教育GPの意義を理解し教育プログラムを企画・実施するうえで有意義でしたか。

1. 有意義だった 48 (92.3%)
2. 有意義ではなかった 1 (1.9%)
3. どちらともいえない 3 (5.8%)



質問2 質問1「有意義ではなかった」「どちらともいえない」の理由

- ・GP そのものについての説明が欲しかった。個々の発表時間をもっと長くしてより具体的に聞きたかった。
- ・一般論として聞いている分にはおもしろいところもあったが、私の所属する部局では難しいような気がする。
- ・コースとかカリキュラムをどのようにして構築したのかがやや説明で不足していたように感じた。
- ・三者がそれぞれの事例をどういう点から説明するのかという横串があると良かった。

- ・なぜ新たなGPに至ったかが明白でない講演があったため。

質問3 今回の全学FDの中で特に印象深かった企画は何ですか。(複数回答)

1. 解説「教育GPインパクト」	0件
2. 取組紹介① 法学府	16件
3. 取組紹介② 理学府	18件
4. 取組紹介③ 生物資源環境科学府	32件
5. 質疑応答	8件

<理由> 2. 取組紹介① 法学府

大変役に立つGPを継続化する組織体制。／英語だけのコースがあるのを知らなかった。／英語による講義を十数年前から徐々に実績を積まれたことに敬意を表します。非常にユニークで、本学にとっても重要な取組だと思いました。／英語のみで行うプログラムについて「留学生30万人計画」性質の動向と結びついて、とても参考になった。／実践的な裏付けに基づいた内容であった。／取組紹介はいずれも教育改革への運気を呼び起こさせる素晴らしいものだったと思う。中でも法学府の取組は「まず実践ありき」との言葉に顕れている通り、教育改革への強い意欲に裏打ちされた事例である点で印象深かった

3. 取組紹介② 理学府

医学部では平成19年度に生命科学科(4年制、定員12名)を立ち上げたのを機会に医学科(6年制、定員100名→105名へ)のカリキュラム改革を進めている。平成15年度設置の大学院医学系学府医科学専攻修士課程カリキュラムの平成23年度実質比改革に取組始めている。他学部出身者の修士課程の受入(しかし博士課程進学率は低い)、博士課程(4年制)と学部教育を含めた(先端)生命医科学者及び高度専門性をもった先端医工学研究者・専門家の養成プログラムの構築に向けてとても参考になった。(FRとASの考え方)／学生の成長の記録等を利用した組織的指導／具体的であり、ポイントがよく分かった。／大学院教育として基本的オーソドックスな考え方にに基づきながら次世代の人材育成を着実に実施していくためのプログラムであるという印象を受けたFRで育成した博士学位取得者の就職先が今後の大きな課題となるのではないかと思われる／取組内容が具体的であった。／特に修士の位置付け

4. 取組紹介③ 生物資源環境科学府

新しいアイデアが入っていておもしろかった／教育の視点が良い／参考となる情

報が全て含まれていたため／実社会に通用する学生を育てるという強い熱意が感じられた／自分の強みに徹底的にこだわるため、学生の性質、教員のあり方を把握して、システム設計されているところに感心しました。目的を達成させるために、何をすべきではなく、どうあるべきかという方策が示されていたように思います。／社会の実践と、具体的な関わりがあり、興味のあるないようであった。／主専攻、副専攻の位置付けを分かり易く、熱く語られた。／主専攻と副専攻。ヒューマンディベロップメント／人間力を育成することは全ての研究分野の研究者に必要な要素であり、大変興味深い話でした。／プロフェッショナルの養成という視点。キャリアパス支援科目（コーチングスキル）／目的達成へのビジョンが明快だった。／理論的なアプローチであると感じたから／我々の部局にない取組であった。／面白いー人材養成の到達点が明確／取組に対する熱意が伝わってきた。

5. 質疑応答

①自分の抱いていた疑問（GP 後の負担をどうするか）について、各事業責任者から同様の問題が存在することが報告されたから。②特に人材の継続的な確保について、同じ問題を抱えていることが明らかになったから。GP もよいですが、教員の教授能力、コース運営能力を高めるための全学的な取組にそろそろ着手してもよろしいのでは？最後の丸野先生のお話にもつながることだと思います。／GP が終わった後、引き続きどうするか。各部局苦勞しておられるのが興味深かった。／①常に「学生の立場」に戻りながらプログラムを構築して欲しい点②副専攻のコンセプト

その他（複数回答分）

GP 制度の将来の問題点および発展制が理解できました／教育プログラムに関するユニークな取組は、大変参考になった。自らの学府に取り込める特色のある企画について検討する際の参考としたい。／申請の留意事項について／関係者の企画力、熱意に感銘を受けた。何かを始めるにはまずそうしたものが必要なのだと実感。／参加となる取組の話が聞けました／事例の選定が絶妙だった／それぞれ特徴的な取組をしている。／部局でのカリキュラム改革の参考になった。プレゼンの参考にもなった。／具体的内容がよく説明されている取組。参考になった。事務体制の強化に関する議論、問題点の指摘は全く同感。教員を支援する事務体制のあり方をもっと議論して欲しい。特に部局事務職員の意識改革を！／企画課の留意事項など分かりやすく良かった

質問 4 来年度の教育GPのうち、興味をもったプログラムは何ですか。(複数回答)

1. 大学教育・学生支援推進事業	18
2. 組織的な大学院教育改革推進プログラム	14
3. 大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム	11
4. 国際化拠点整備事業（グローバル30）	7
5. グローバルCOEプログラム	11
6. 周産期医療環境整備事業	0
7. 看護職キャリアシステム構築プラン	0
8. 大学病院連携型高度医療人養成推進事業	0
9. 科学技術振興調整費	2

質問 5 あなたの所属する部局でプログラムを申請するとしたらどのようなプログラムが可能であると考えますか。

- ・ 1. 市民ニーズと造形教育の連携。 2. デザインストラテジー専攻（産業界と強く連携したコースワークによる、高度職業人の育成） 3. アジアー福岡、デジタルコンテンツ、創出。
- ・ DS 専攻の展開発展形として 2, 3 を活用した形での新しいしくみが検討できるかも・・・。
- ・ 一から考え直します
- ・ 医療系大学の組織化による教育の展開。医療系大学の横の連携を強化し実践能力の育成。語学教育を活発化する。
- ・ 組織的な大学院教育改革推進プログラム
- ・ 具体的計画ではないが、今後、大学院インターンシップを継続的に実践できるようなプログラムの構築が必要と思う。
- ・ グローバルCOE
- ・ 国際化拠点整備事業。
- ・ 質問 3 に記した内容を順次整えていきたい→（1&2）臨床医学系としては、医学科学生定員の 5 名増とも関係して 6、また医療形統合教育 Ctr を中心に 7&8 が考えられる。
- ・ 大学教育・学生支援推進事業、組織的な大学院教育改革推進プログラム
- ・ 質問 4 ②、③
- ・ 大学教育・学生支援推進事業、組織的な大学院教育改革推進プログラム
- ・ 論文を書く。それが OJT として、重要。

質問6 プログラム申請にあたり望まれる支援体制について要望等ありましたらお書きください。

- ・ GP 後の支援
- ・ 息の長い事務的サポート体制。国際的な教育の充実とすることで人件費の支援体制の充実→欧米研究者・教員を招へいして学際領域のコース科目を開講できたら良いと思っている。（英語による専門教育）
- ・ 採択後の支援の担保の明確化。期間終了後の支援の担保の明確化。
- ・ 事務側のサポートが必要。コピーなどまで教員がやるのはおかしい。→常時ディスカッションをし、育てることが必要。移動が多すぎ。ポイントを削らないこと。
- ・ 事務局（部局）のバックアップ体制
- ・ 人事評価体制の厳格性—給与等への反映も
- ・ 専門のサポートスタッフが欲しい。
- ・ なるべく負担を少なく。出口に則す負担のみにして欲しい。
- ・ 部局内での WG と委員会との連携会議
- ・ プログラム申請を促進するために、教員への経済的支援（本部局は GP 申請による研究費増額などの措置がないようで、非常に関心がうすい）

質問7 全学FDに対する意見、提案等ありましたら自由にお書きください。

- ・ FDで開かれる部局ごとの取組とその経験が、全学的に生かされる仕組みが形成される事を願いたい。教育GP等が単に「競争的賃金を獲得するための手段」になり下がらないように、内容如何で評価される全学的システムを確立してほしい。（抽象的であるが・・・）教育への意欲を強く喚起する非常に有意義なFDであったと思います。
- ・ いつも勉強させていただいています。
- ・ 教育の推進には常に予算と人事という問題が生ずるので、財務や人事の事務職等も参加し、大学全体がどうあるべきかを考えさせるべき。SDを進めるべき。
- ・ 教員の興味・関心に沿ったFDテーマ
- ・ 今日のお話で明らかのように、全学的事務スタッフのプロフェッショナルなレベルでのサポートが最重要であり、これがない限り我々の院で申請することは教員の自滅行為となり、あり得ない。
- ・ 参加は何のためか分からない。
- ・ 執行部と部局の先生の意見交換の場となっているのではないのでしょうか。それ

は FD ではないと思います。そもそも教育理事が挨拶することから始めるのは、おかしい。FD の趣旨が分からなくなってきました。（テーマがテーマだけにしょうがないですかね。）

- 出席してみると、それなりに有意義であるが時間帯を考えると殆どの教員にとって参加はむずかしい。
- 障害をもった学生に対する教育について考えたい
- 新任の教員等に分かり易い指導・情報提供が欲しい。
- 年間的な計画を早めに作っていただき、広報してもらいたい